

## ラテン・アメリカ政経学会 平成 30 年度総会資料

平成 30 年 12 月 2 日（日） 12 時 50 分～13 時 40 分（予定）

於：神田外語大学・4-302 室

### 議事次第

#### 審議事項

1. 平成 29 年度活動報告（理事長） (資料 1)
2. 平成 29 年度会計報告（宮地理事） (資料 2)
3. 平成 30 年度事業計画（理事長） (資料 3)
4. 平成 30 年度予算（宮地理事） (資料 4)
5. 次期理事選挙の実施（理事長） (資料 5)
6. 日中韓ラテンアメリカ研究交流（理事長） (資料 6)
7. 会員の入退会について（理事長） (資料 7)
8. 平成 31 年度全国大会開催校：獨協大学（理事長）
9. その他

#### 報告事項

1. 学会誌 No.52 の発行について（桑原理事） (資料 8)
2. その他

## 資料 1

### 平成 29 年度活動報告

平成 29 年度に以下の事業を行った。

- (1) 11 月 3 日～4 日に京都大学・稲盛財団記念館で全国大会を開催した。
- (2) 『ラテン・アメリカ論集』第 51 号を発行した。
- (3) 6 月 9 日～10 日に韓国・全州にて、韓国と中国の研究者とラテンアメリカ研究東アジアネットワーク (East Asian Network of Latin American Studies) のワークショップを開催した。
- (4) 研究奨励賞を募集し、選考委員会が選考を行い、受賞者を決定した。
- (5) 12 月 16 日に同志社大学烏丸キャンパスで関西部会を開催した。
- (6) 地域研究学会連絡協議会、地域研究コンソーシアムの加盟学会として関係学会と交流した。
- (7) 学会ホームページを更新して社会に情報を発信するとともに、メーリングリストを通じた会員向け情報提供のサービスを提供した。

資料 2

資料 2

ラテン・アメリカ政経学会  
 平成29年度（平成29年4月1日～30年3月31日）会計報告  
 （平成30年3月31日現在）

収入の部			支出の部	
前期繰越金	4,162,828	A		
会員会費収入	837,000		全国大会開催関係費	406,000
（個人会員）	837,000		学生会員への旅費補助	24,780
（維持会員）	0		印刷費	804,319
雑収入	28		消耗品費	3,196
（預金利息）	28		通信費	138,167
			事務局経費	78,966
収入合計	837,028		支出合計	1,455,428
差引残高（収入－支出）	(618,400)	B		
			次期繰り越し金 (A+B)	3,544,428

会計監査報告

上記の平成29年度会計報告は、領収書ほかの証拠書類と照合したところ、適正に処理されていると認めます。

平成30年 11 月 9 日

監事

岡田 勇

印

監事

外方周一郎

印

資料 3

平成 30 年度事業計画（案）

平成 30 年度に以下の事業を行う。

- (1) 12 月 1 日～2 日に神田外語大学で全国大会を開催する。
- (2) 『ラテン・アメリカ論集』第 52 号を発行する。
- (3) 地域部会を開催する。
- (4) 地域研究学会連絡協議会、地域研究コンソーシアムの加盟学会として関係学会と交流する。
- (5) 研究奨励賞の選考委員会を設置して選考を行い、受賞者を決定する。
- (6) 学会ホームページを通じて社会に情報を発信するとともに、メーリングリストを通じた会員向け情報提供のサービスを提供する。
- (7) 国際学術交流を実施する。
  - 1) ラテンアメリカから研究者を招聘する会員への補助事業の実施
  - 2) 日中韓ラテンアメリカ研究ネットワークへの参加
- (8) 次期理事の選挙を実施する。
- (9) その他、本会の目的に合致する事業。

## 資料 4

## 平成 30 年度予算（平成 30 年 4 月 1 日～31 年 3 月 31 日）（案）

（平成 30 年 11 月 20 日作成）

収入の部			支出の部	
前期繰越金	3,544,428	A		
会員会費収入	850,000		全国大会開催関係費	250,000
（個人会員）	850,000		学生会員への旅費補助	25,000
（維持会員）	0		印刷費	400,000
雑収入	28		消耗品費	5,000
（預金利息）	28		通信費	100,000
			事務局経費	70,028
収入合計	850,028		支出合計	850,028
差引残高（収入－支出）	0	B		
			次期繰り越し金（A+B）	3,544,428

資料 5 理事選挙に関する資料

ラテン・アメリカ政経学会理事選挙実施要綱

(1980 年 11 月 8 日制定)

(2011 年 11 月 13 日改正)

1. 理事の総数は 10 名程度とし、うち約 6 名は会員の選挙によりこれを選任し、約 4 名は選挙により選ばれた理事の推薦にもとづき会員総会においてこれを選任する。ただし、上記の選挙において下位同点の場合は、それらを当選とする。
2. 理事の選挙を行うため選挙毎に 5 名の委員をもって構成する選挙管理委員会を設け、その委員は理事会の推薦にもとづき会員総会においてこれを選任する。
3. 選挙権者および被選挙権者は、本学会の会員（ただし、選挙実施年の前年度末現在において会費完納の者）とする。連続二期理事を務めたものは、次の期の被選挙権を失う。
4. 選挙は郵便による投票によって行う。
5. 投票は無記名とし、5 名連記として行う。
6. 投票の時期は、役員改選年次の会員総会予定日前の適当な時期とする。
7. 昭和 54 年次からこの選任方法を実施する。

(つづき) 前回の選挙について

平成 28 年 5 月 27 日

選挙権者各位

ラテン・アメリカ政経学会  
選挙管理委員会  
委員長 近田 亮平

現在の理事の任期満了に伴い、約 6 名の次期の理事を選ぶ選挙を、理事選挙実施要綱に基づいて実施することといたします。投開票手順は、昭和 56 年 6 月 1 日付の選挙管理委員会が作成した下記の理事選挙実施要領により行います。何卒洩れなくご投票くださいますようお願いいたします。

記

1. 投票は無記名連記投票によって行なう。
2. 被選挙権名簿のうちより、5 名を投票用紙に連記する。
3. 5 名を超えるものもしくは未満の連記投票は無効とする。
4. 選挙権者は要綱第 3 項により平成 27 年度末日現在会費完納の会員である。ただし、学会規約第 14 条により、今期まで連続 2 期理事を務めたものは、被選挙者名簿から除かれている。
5. 投票用紙を投票用封筒（無記名のこと）に封入し、返信用封筒（裏面に住所・氏名を記入のこと）に入れ、平成 28 年 6 月 27 日までに、選挙管理委員会（〒261-8545 千葉県千葉市美浜区若葉 3 丁目 2-2 日本貿易振興機構アジア経済研究所地域研究センター 近田亮平気付 ラテン・アメリカ政経学会選挙管理委員会）に届くように郵送すること。平成 28 年 6 月 28 日に開票の予定。
6. 所定の投票用紙、投票用封筒を用いない場合、及び所定の日限に到着しなかった場合は無効とする。
7. 開票結果は、2 票以上の得票者を全員に通知する。約 6 名の当選者には全得票者を通知する（昭和 59 年 11 月 11 日付理事会及び会員総会決議による）。
8. そのほか、投票に関して疑義が生じた場合は選挙管理委員会において審議の上これを決定する。

同 封 1. 被選挙権者名簿  
2. 投票用紙  
3. 投票用封筒  
4. 返信用封筒

平成 28 年 6 月 28 日

ラテン・アメリカ政経学会会員各位

選挙管理委員会  
委員長 近田亮平  
委員 坂口安紀  
清水達也  
舛方周一郎  
村井友子

平成 28 年度理事選挙の開票結果について (報告)

過日ご投票いただいた理事選挙について本日 (6 月 28 日) 開票しました。結果 (2 票以上の得票者) は下記のとおりです。理事選挙実施要領 (1980 年 11 月 8 日制定) の規定 (理事の総数は 10 名程度とし、うち約 6 名は会員の選挙によりこれを選出し、約 4 名は選挙により選ばれた理事の推薦にもとづき会員総会においてこれを選任する。ただし、上記の選挙において下位同点の場合は、それらを当選とする) に従い、上位 6 名までを選挙による当選者とします。

記

有効投票用紙数 59 枚  
無効投票用紙数 1 枚  
有効投票数 295 票

順位	氏名	得票数	順位	氏名	得票数
1	受田宏之*	19	14	桑原小百合	8
2	村上勇介*	17	15	安井 伸	7
3	坂口安紀*	14	15	小池洋一	7
3	清水達也*	14	17	岡田 勇	6
5	安原 毅*	13	17	桑山幹夫	6
5	山崎圭一*	13	17	堀坂浩太郎	6
7	近田亮平	12	20	村井友子	5
8	宇佐見耕一	11	20	田島陽一	5
9	北野浩一	10	20	辻 豊治	5
9	子安昭子	10	23	河合沙織	4
11	谷 洋之	9	23	澤田眞治	4
11	住田育法	9	23	田村利花	4
11	宮地隆廣	9	23	山岡加奈子	4

\*は当選者を表す。

## 資料6 日中韓ラテンアメリカ研究交流 (EANLAS) についての提案 (理事会承認済み)

### EANLAS について

【経緯】 EANLAS は浜口伸明が JSLA の理事長であった 2014 年 12 月に韓国ラテンアメリカ学会 (LASAK) に招聘されたときに、緩やかな研究者のネットワークの設立が話し合われ、JSLA は EANLAS の日本側代表機関となり、2016 年 (平成 28 年) 度以降は、JSLA の年間事業計画の国際学術交流の一部として総会の承認を受けている。韓国の代表機関は LASAK、中国の代表機関は北京大学国際関係学院である。

EANLAS の代表は、現在は 2018 年に研究会を開催した韓国から Chon-Sup Kim ソウル国立大学校教授である。次の代表は 2019 年に 9 月に研究会開催を予定している中国 (南開大学がホスト) から、董経勝北京大学教授となる予定。2020 年に日本に当番が回ってくるので、そのときの JSLA 理事長に代表をお願いしたい。

【共同研究成果】 EANLAS は 2016 年 7 月に北京大学で第 1 回研究会、2017 年 1 月に神戸大学で第 2 回研究会、2018 年 6 月に全北大学校において第 3 回研究会をそれぞれ開催した。また、2018 年には EANLAS の成果の一部として Hamaguchi, Nobuaki, Guo, Jie & Kim, Chong-Sup. 2018. *Cutting the Distance Benefits and Tensions from the Recent Active Engagement of China, Japan, and Korea in Latin America*, Springer を出版。

### 提案 (1) 浜口前理事長の世話役への指名の承認

EANLAS (East Asian Network of Latin American Studies) の日本における世話役 (General Secretary) に浜口伸明前理事長を指名することの学会としての承認を提案する。期間は次に日本で研究会を開催することになる 2020 年まで。

EANLAS に対して LASA やラテンアメリカ地域で開催される国際学会から交流の依頼があり、そのような場合の交渉に、代表者および組織構成を示す必要がある。世話役は 3 カ国の代表機関が、代表者は次の研究会を開催する国の代表機関が、それぞれ指名する。

### 提案 (2) 若手研究者への旅費補助 (上限は 5 万円)

これまで EANLAS 研究会には JSLA から浜口伸明、岡田勇、村上善道、高橋百合子、清水達也、舛方周一郎、河合沙織、内山直子、受田宏之の会員各位のほか、岸川毅氏、安保寛尚氏、寺尾隆吉氏も参加している。今後は、これまで以上に広く研究者の参加を募り、ネットワークの拡充に努める必要がある。

参加者の旅費は各自で負担することになっており、JSLA として金銭的負担は生じていない。参加のインセンティブを高めるために、学会から会員の若手研究者 (院生・ポスドクを含む) に対して、5 万円を上限として旅費補助をすることを提案する。

# EAST ASIAN NETWORK OF LATIN AMERICAN STUDIES (EANLAS)

## 1. ABOUT EANLAS

East Asian Network of Latin American Studies (EANLAS) is an academic network for discussion and debate of Latin American affairs and comparative analysis of Asian and Latin American societies. EANLAS, as an academic network, bridges Latin Americanists in China, Japan and Korea. The main coordinators for EANLAS are Japan Society of Social Science on Latin America (Japan), Latin American Studies Association of Korea (Korea) and Chinese Association of Latin American Historical Studies (China).

The purpose of EANLAS is to stimulate and disseminate scholarly research in the broad scope of Latin American studies in the humanities and social sciences. It organizes annual international seminars and promotes academic cooperation among scholars of three countries.

## 2. GOVERNANCE

President: He or she is elected from the country which organizes the annual seminar. His/her term is one year.

Three general secretaries: Each country elects one general secretary whose term is three years.

## 3. CURRENT GOVERNMENT

President: Dr. Chong-Sup Kim (Seoul National University, Korea) (2018)

Next President: Dr. Dong Jingsheng (Peking University, China) (2019)

General Secretaries: Dr. Guo Jie (Peking University, China) (2018-2020)

Dr. Nobuaki Hamaguchi (Kobe University, Japan)  
(2018-2020)

Dr. Yun-Joo Park (Keimyung University, Korea)  
(2018-2020)

(Letter from the EANLAS president)

Dear members of Japan Society of Social Science on Latin America, Latin American Studies Association of Korea, and Chinese Association of Latin American Historical Studies, and those who are interested in Latin American Studies:

Greetings,

As president of EANLAS, I wish you to accept my warm welcome to East Asian Network for Latin American Studies (EANLAS). In recent years, the three associations mentioned above have coordinated to establish East Asian Network of Latin American Studies (EANLAS), which is an academic network for discussion and debate of Latin American affairs and comparative analysis of Asian and Latin American societies.

EANLAS will organize annual international seminars and promote academic cooperation among scholars of three countries.

Everyone who is interested in Latin American Studies, is welcomed to EANLAS through the three associations.

For further detail please refer to the attached memo.

Sincerely,

Chong-Sup KIM, President

EANLAS

Professor, Graduate School of International Studies

Seoul National University

## 会員の動向

入会者			
	氏名（種別）	所属	推薦会員
1	牛島万（一般）	京都外国語大学	住田育法
2	大澤傑（学生）	防衛大学校総合安全保障研究科博士 後期課程	舩方周一郎
3	片野修（一般）	三井物産戦略研究所	上嶋俊一
退会者			
	退会を志望	辻豊治	
会員数（在外会員を含む）			
	一般会員（学生、シニア含）（平成 29 年 11 月 4 日）		158 名
	新入会員		3 名
	退会会員		1 名
	長期会費未納による除名		0 名
	一般会員（学生、シニア含）（平成 30 年 12 月 1 日現在）		160 名
	法人会員		0 社

2018年12月1日  
第54回全国大会理事会・総会資料

『ラテン・アメリカ論集』編集委員報告

『ラテン・アメリカ論集』52号の編集作業の進行状況について報告します。

52号の内容は研究論文1本、研究ノート2本、書評6本です。投稿論文は4本で、2名の査読者による審査により、1本を研究論文、2本を研究ノートとして掲載することになりました。書評は、会員が著者または編者となって2018年5月頃までの1年間に出版された本を取り上げました。詳しくは次ページをご覧ください。

印刷は昨年と同じプリントボーイにお願いし、冊子200部を学会事務局へ（12月7日着予定）、論文・研究ノート抜き刷りを各執筆者に50部ずつ送付するよう依頼してあります。

なお、研究奨励賞を広く周知するため、前号で学会消息の中にあつた受賞対象業績および受賞者の言葉を、今号では学会消息の前に掲載しました。

最後になりましたが、編集にあたってご協力いただいた会員の皆様に、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

2018年12月1日

桑原小百合

『ラテン・アメリカ論集』52号編集担当幹事

『ラテン・アメリカ論集』2018 No. 52  
合計 147 ページ (表紙、目次、奥付を除く)

< 研究論文 >

2011 年チリの学生運動と大学無償化案に関する分析：学生運動はなぜ無償化への支持を獲得できたのか  
三浦航太

< 研究ノート >

ブラジル労働者党政権下の産業政策と産業別生産性  
二宮康史

ブレッセル・ペレイラの新開発主義とブラジルの産業振興における為替相場管理の役割  
松野哲朗

< 書評 >

Naoko Uchiyama

Household Vulnerability and Conditional Cash Transfers: Consumption Smoothing Effects of PROGRESA-Oportunidades in Rural Mexico, 2003-2007  
咲川可央子

所康弘 著

『米州の貿易・開発と地域統合——新自由主義とポスト新自由主義を巡る相克——』

田島陽一

牛島万 著

『米墨戦争前夜のアラモ砦事件とテキサス分離独立—アメリカ膨張主義の序幕とメキシコ』

今井圭子

山岡加奈子 編

『ハイチとドミニカ共和国—ひとつの島に共存するカリブ二国の発展と今—』

松本八重子

小池洋一・田村梨花 編著

『抵抗と創造の森アマゾン—持続的な開発と民衆の運動』

千代勇一

田村梨花・三田千代子・拝野寿美子・渡会環/共編

『ブラジルの人と社会』

舛方周一郎

< 研究奨励賞 >

< 学会消息 >